

# 第1回 オンライン明トラ 世界選手権 開催報告

明専会 理事 木原 義幸（開58）



## 「はじめに」

2019年12月7日開催の第23回通常理事会において、明トラを楽しむ機会と会員を増やすことで同窓の絆を強化するため、「明トラプロジェクト検討小委員会」が立ち上がりました。この取り組みの一つとして、2022年の総会において「全国明トラ大会」の開催を目指すこととなりました。

この前段階として2021年3月20日の第9回定時社員総会の終了後に、全国明トラ大会の決勝戦を模した明トラ対戦を行いました。明専会報第907号にて報告したところです。

これを機に2021年は全国各地で明トラ大会を開催しようと目論んでいたところですが、新型コロナウイルスの蔓延は収まらず、実際に集まった大会開催が難しい状況が続きました。そこで、インターネットを介して全国的な明トラ大会を行おうという企画が持ち上がりました。

## 「オンライン明トラの開発」

実は、明トラ伝承プロジェクトでは、インターネットを介して明トラができるようにすれば、プレイヤーが離れた場所においても手軽に楽しめ、遊べる機会も多くなることから、明トラの普及に寄与するに違いないと、オンライン明トラソフトの制作をゼロから始めていました。基本的な形はでき上がってはいましたが、細かなバグが解消せず、完成形に至っていませんでした。

小委員会では2020年に、早期の実用化を図るため、制作中のソフト

トを完成させ、長期にわたりメンテナンスできるしくみを、九州工大卒業生や現役学生の協力を得て構築できなにかを模索していました。そのような2020年12月頃、永

松常務理事から

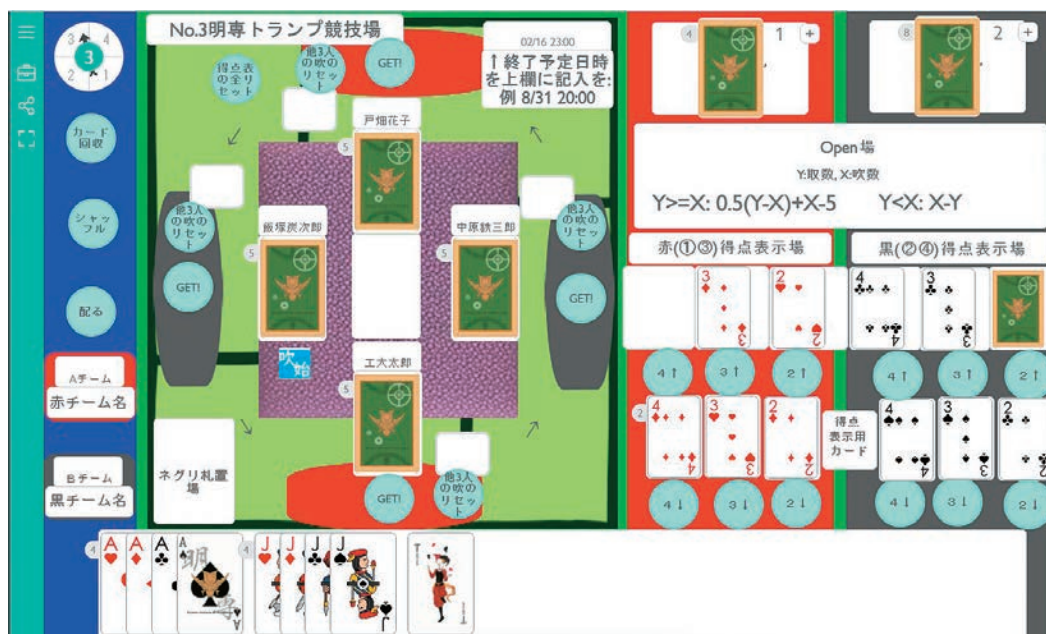
「ネット経由で画面の上のトランプを操作できれば明トラはできる。そのような既存のサービスを活用する方法もある」とのアドバイスがありました。石橋副会長が調べた結果、

「Playing Cards」というトランプゲームを様々な形にカスタマイズできる海外のサービスを見付け出しました。

その後、明トラ伝承プロジェクトの定例会議において、使うカードや配り方、点数の付け方など明トラ仕様への改善に向けて検討・改善作

業を重ねました。

2021年6月頃には、マウスでの操作をかなり要するものの、明トラの対戦が楽しめる段階にまで達しました。



オンライン明トラプレイ画面

「オンライン明トラ体験会」

この段階で、8月9日(月・祝)に「オンライン明トラ体験会」を行いました。大会に向けたPRと大会運営の練習の目的もありましたが、実際にプレイしていただくことで、課題や改善要望も伺うことができました。これらを踏まえて、カード操作などをできるだけ自動化する、デザインをわかりやすく工夫するなど様々な改善を進め、プレイ時間の短縮化、操作ミス防止を図りました。

「オンライン明トラ体世界選手権」

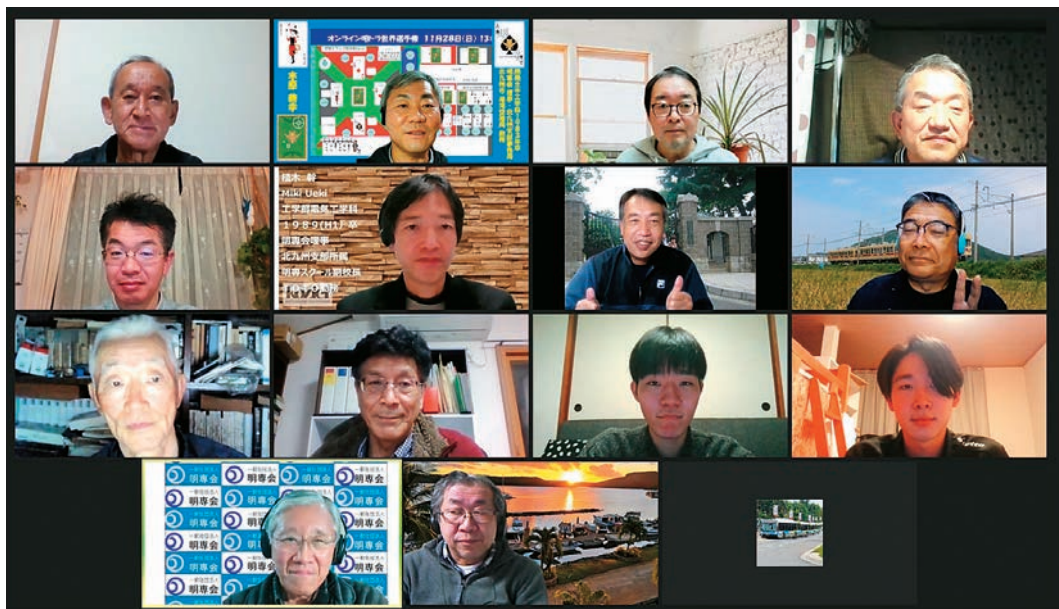
完成度が高まったことで、いよいよ全国大会を企画することになりました。インターネットを利用するのであれば、海外にいる明専会会員も参加できることと、ちょうど北九州市で行われていた「世界体操選手権」に触発され、大会の名称を「世界選手権」にしました。

まず予選を11月28日(日)に行い、上位8チームを選抜し、決勝戦を2022年1月23日(日)に行い、3月19日(土)の明専会社員総会の後で、優勝3位の表彰式を行うこととしました。

「予選」

予選には多くのチームが参加することを想定して、試合数が少なくても本当に実力があるチームが決勝戦に進めるような仕組みを採用しました。例えば、通常の3〜4チームが総当たりをするリーグ戦では、同一リーグに強いチームだけ、弱いチームだけが集まってしまうと、決勝戦進出選抜としては不公平になります。そこで「スイス式トーナメント」を準用し、一試合ごとに同等の勝敗数、すなわち実力が同等のチーム間での対戦を順次組んでいき、その中で勝ち数が多いほど上位になるという方式を試験的に導入しました。

また大会の準備から運営までの事務的な作業を軽減するとともに、オンラインでも大会を円滑に進めるために、参加者の募集・登録、参加者リスト作成、参加者への連絡、対戦相手や順位決定、参加するべき明トラ競技場のURLの通知などほとんどにおいてGoogleのサービス(Gmail、フォーム、スプレッドシート、ドキュメント)を最大限活用しました。開催案内を9月に明専会のホーム



予選 Zoom 集合写真

ページに掲載し、PRに努めました。しかし、参加チームは、現役学生チーム1チームを含む計6チームで、全チームが自動的に決勝戦進出となり

ました。海外からの参加もなく、少し寂しく残念な予選となりましたが、参加者は明トラを存分に楽しむことができました。

順位	チーム名	選手1	選手2	試合数	勝ち数	負け数	勝ち点
1	103_東京支部	若林 澄治	橋本 定晴	4	4	0	12,089,546
2	101_鳳龍クラブ	栗原 正人	竹林 貴史	4	2	2	6,103,551
3	106_TOTO	金子 浩親	植木 幹	4	2	2	6,094,546
4	102_ボレボレA	高丸 幹	青井 俊也	4	2	2	6,067,025
5	104_福岡県代表	小川 俊二	藤井 雄一	4	1	3	3,068,525
6	105_明トラ伝承	新宅 秀信	石橋 一郎	4	1	3	3,057,024

予選成績

「決勝戦」

決勝戦では、海外在住の卒業生と、今後の明トラ普及促進のため若手に

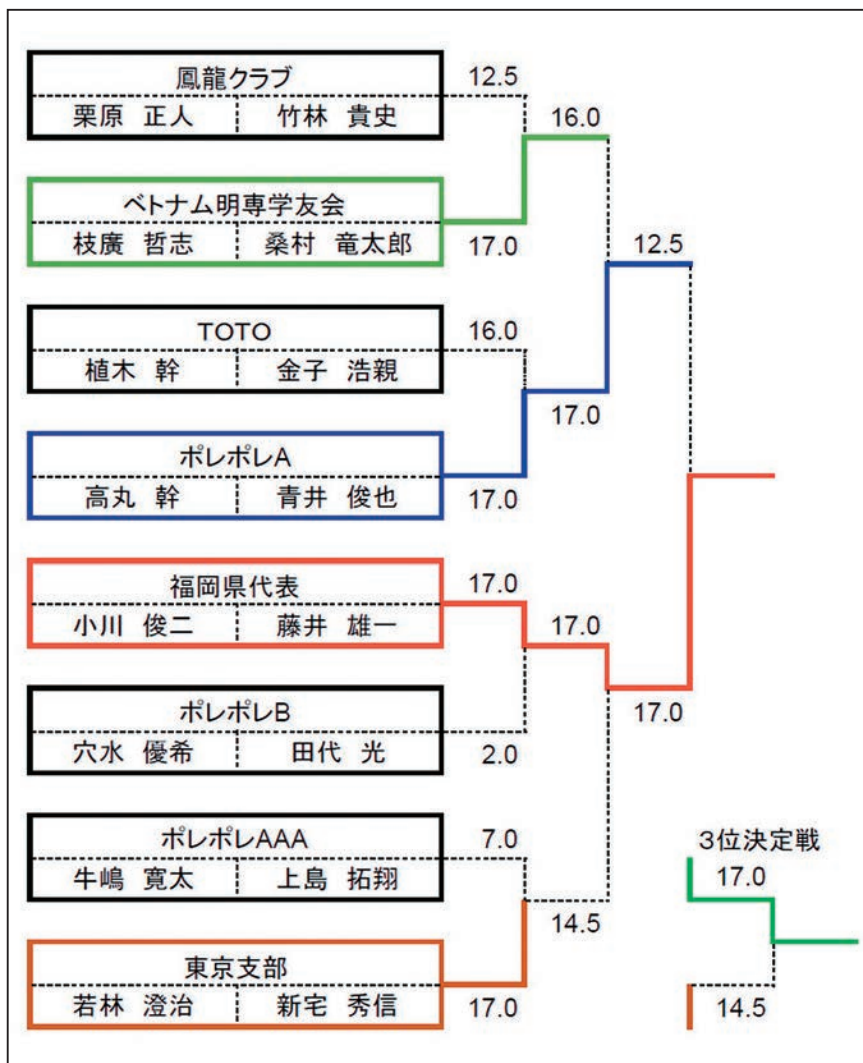


決勝戦 Zoom 集合写真

も参加してほしいとの思いから、海外枠1チーム、学生枠2チームを設けて全8チームの参加を目指すことになりました。様々な方面から働き

かけを進めた結果、ベトナム明専学友会と、めいせんサークルから2チームの計3チームに参加していただけになりました。そこで、予選参加チームを5チームに再編成し、合計8チームによる決勝トーナメントが実現しました。結果は表に示す通りで、学生チームと、ベトナムチームが上位に入りました。

決勝戦では、卒業生のチームは、学生のチームが明トラの定石である序盤での「切り追い」をしない戦法に惑わされたようです。学生チームが準優勝となったことから、反省会でも「切り追い」の有効性が議論となり、明トラ伝承プロジェクトでも検証を進めているところです。みなさんの見解はいかがでしょうか？



決勝トーナメント成績



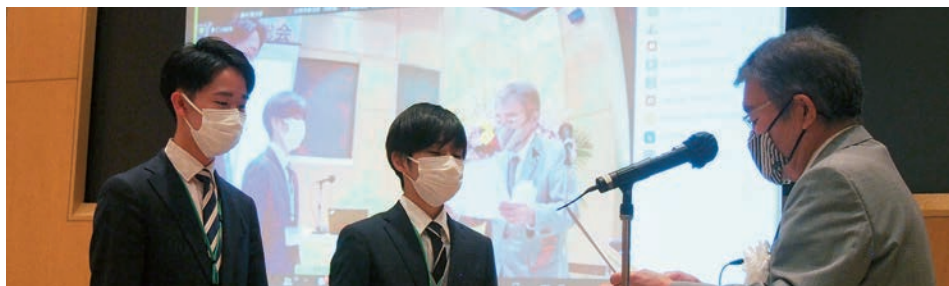
優勝「福岡県代表」



準優勝「ボレボレA」



3位「ベトナム明専学友会」はオンラインで表彰



高原会長から表彰状と副賞の授与の様子

【表彰式】

表彰式には、優勝の「福岡県代表チーム」と、第2位の「ボレボレAチーム」が総会会場にて、第3位の「ベトナム明専学友会」はオンラインで出席していただき、高原会長か

ら表彰状と副賞が授与されました。また、参加者には参加賞が贈られました。

【オンライン明トラ大会の効果】

今回の世界選手権を通じて、オンライン明トラサービスを使用すれば、

交通費や会場費などのコストを抑えて、居場所に関係なく多くの方が参加できる明トラ大会が、問題なく開催できることが証明できました。

事後の懇親会では、明トラについての会話が弾み、話題はさらに広がって仕事や経験談にも及びました。

後日、参加者に感想を伺ったところ、「久しぶりの明トラで楽しかった」「学生時代に戻ったような時間を過ごせた」「皆さんと交流できてよかった」などに加え、「次は優勝したい」「次はスラミを吹いて、スラムたい」「次は選手として参加したい」といった次回への意欲を見せるコメントも多く寄せられました。

さらに、選手権後の北九州支部主催の交流イベント「めいせんnet」にも参加していただけするなど、明専会会員間の交友関係の拡大・絆の強化につながるといった効果も確認できました。

【結び】

明専会では、令和4年から「多様性推進部会」が明トラを活用した同窓の絆強化を進めることになりましたが、引き続き明トラ伝承プロジェクト

クトと協力しながら、オンライン明トラサービスを活用した練習会や大会を企画して参ります。開催情報は、明専会ホームページの明トラ普及サイトでお知らせいたしますので、お誘いあわせの上ご参加ください。

また今回準備した大会運営用の仕組みは、オンライン大会はもちろん、リアルな大会でも活用できますので、必要な場合はご連絡ください。

今後とも、九州工大の伝統・明トラを通じて、親睦を深めていきましょう。「いや〜、明トラって本当に楽しいですネッ」。

(木原義幸 北九州市役所  
港湾空港局 港湾整備部 主幹)



明トラ伝承プロジェクトメールアドレス  
meitraproject@gmail.com

明専会ホームページ明トラ普及サイト  
https://www.meisenkai.or.jp/branch/detail/5048